

# JSCS

日本カリキュラム学会  
The Japanese Society for Curriculum Studies

## 第35回 筑波大学大会プログラム

**2024年7月6日(土) ~ 7日(日)**

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

筑波大学 筑波キャンパス

第35回大会実行委員会

委員長 樋口直宏

E-mail [jscs35ut@gmail.com](mailto:jscs35ut@gmail.com)

大会 HP <https://jscs-info.jp/meeting/2024.html>

共催：筑波大学大学院教育学学位プログラム

後援：茨城県教育委員会、つくば市教育委員会

35th

# 日本カリキュラム学会

## 第35回 筑波大学大会プログラム

◆前 日 2024年7月5日（金）16:00～18:00 理事会

筑波大学 筑波キャンパス人間系学系棟 B523/524 会議室

◆第1日 2024年7月6日（土）

受付 9:00～ 筑波大学・筑波キャンパス 2H 棟 1階

9:30	<b>課題研究 I</b> 多様な学びと学校の課題  2H101 教室	<b>課題研究 II</b> 授業研究とカリキュラム研究との接点の探求 -国際比較研究の視点から-  2H201 教室
11:30	昼食	
12:30	自由研究発表 I	
15:00	休憩・移動	
15:15	<b>公開シンポジウム</b> ポスト資質・能力時代におけるカリキュラムのゆくえ  2H101 教室	
17:45	休憩・移動	
18:00	研究交流会	
19:30	第2エリア食堂	

◆第2日 2024年7月7日（日）

受付 9:00～ 筑波大学・筑波キャンパス 2H 棟 1階

9:30	自由研究発表 II	
11:30	休憩・移動	
11:45	総会  2H101 教室	
12:45	昼食	
13:30	<b>課題研究 III</b> デジタル社会の危険性とカリキュラム 2H101 教室	<b>課題研究 IV</b> カリキュラムの「不易と流行」を語るV -研究としての‘面白さ’を語り合う- 2H201 教室
15:30	休憩・移動	
15:45	自主企画セッション	
17:15		

# 大会参加要領

## 1. 会場

筑波大学筑波キャンパス 中地区(2A棟・2H棟)  
アクセスについては下記サイトをご参照下さい。

<https://www.tsukuba.ac.jp/access/index.html>



## 2. 受付

筑波大学筑波キャンパス 2H棟 1階

## 3. 大会参加申し込み（参加費）について

### 【参加登録（参加申込）】

オンラインシステムにより事前の参加登録を受け付けます。参加をご予定の方は、以下の受付期間にシステムより参加のお申込みおよび参加費の納付をお願いします。詳しくは学会ホームページの「最新の全国大会」をご参照下さい (<http://jscs.b.la9.jp/meeting/meeting.html>)

なお、大会第1日（7月6日（土））15:15から予定されております公開シンポジウムにつきましては、どなたでも無料で参加いただけます（人数把握のため、上記、参加申込システムでシンポジウムのみ参加受付も行っております。ただし、当日の参加も可能です）。この機会に是非ご参加下さい。

【事前参加申し込み期間】2024年3月11日（月）正午 ～ 6月14日（金）17時まで

※大会当日も会場にて参加受付を行います。運営の円滑化のため、できる限り事前の参加申込・参加費納付にご協力下さい。

【事前参加申込システム】<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JSCS>



### 【参加費】

参加費収納事務の効率化と納付手続きの利便性向上のため、クレジット決済を導入しております。クレジット決済につきましては、参加申込システム上で手続きを行ってください。また、従来通り、郵便振替でのご入金も承っておりますので、口座情報については、参加申込システムの申込完了メールをご参照下さい。

正会員	3,000円
学生会員	1,000円
団体会員	3,000円(※)
臨時会員	4,000円
公開シンポジウム参加のみ	無料

※団体会員である機関からは、会員価格で複数名での参加が可能です。複数名での参加をご希望の場合は手続きについて事務局 [g050jscs-mng\[at\]ml.gakkai.ne.jp](mailto:g050jscs-mng[at]ml.gakkai.ne.jp) ([at]を@に変更してください)へお問い合わせください。

#### 4. 昼食

6日(土)は第2エリア食堂をご利用いただけますが、提供できる食事数が限られております。また7日(日)は、第2エリア食堂は営業しておりません。大学周辺のレストランの数も少ないため、6日(土)・7日(日)ともできる限りお弁当の事前予約購入をお願いいたします(1食1,000円)。事前予約購入はオンライン参加登録システム上で可能です。当日のお弁当購入は対応致しかねますことをご承知おきください。

#### 5. 研究交流会

第2エリア食堂にて行います。研究交流会の参加は、事前予約のみ受け付けます。事前予約は、オンライン参加登録システム上で可能です。事前予約のない方は、研究交流会に参加できないことをご承知おきください。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

研究交流会費 4,500円
---------------

#### 6. 要旨集および発表資料について

自由研究発表・シンポジウム・課題研究の発表要旨は、大会2週間前から大会HPよりダウンロード可能となります(会員/臨時会員(参加者))。配布準備ができましたら、大会HP・メール等でご案内申し上げます。

また、上記に加え、各発表者の要旨原稿および発表資料(任意/システムへアップロードした方のみ)についても大会2週間前から専用サイトにて閲覧・ダウンロード可能となる予定です。こちらについても準備が整いましたら、併せてご案内申し上げます。

#### 7. 問い合わせ先(大会事務局)

日本カリキュラム学会第35回筑波大学大会実行委員会

・大会運営・企画関係：

[jscs35ut\[at\]gmail.com](mailto:jscs35ut[at]gmail.com) ([at]を@に変更してください。)

大会実行委員会 木村範子

・入会・会員管理・会費管理関係：

[g050jscs-mng\[at\]ml.gakkai.ne.jp](mailto:g050jscs-mng[at]ml.gakkai.ne.jp) ([at]を@に変更してください。)

(株) ガリレオ学会業務情報化センター内 日本カリキュラム学会事務局

・参加登録・発表申込関係：

[g050jscs-taikai\[at\]ml.gakkai.ne.jp](mailto:g050jscs-taikai[at]ml.gakkai.ne.jp) ([at]を@に変更してください。)

(株) ガリレオ学会業務情報化センター内 日本カリキュラム学会事務局 (大会担当)

## 自由研究発表要領

### 1. 発表時間について

自由研究発表の時間は、原則として次の通りです。

個人研究発表 25分（発表 20分・質疑討議 5分）  
共同研究発表 50分（発表 40分・質疑討議 10分）

なお、共同研究であっても、発表者がお一人の場合は個人研究発表と同じ時間設定です。

### 2. 発表資料について

発表資料は、発表者が、ご自身で発表申込システムからアップロードできます。大会参加者は、発表者がアップロードした資料を各自のPCやタブレットなどの端末から閲覧することになります。また、紙媒体で発表資料を配布したい場合は、各自で必要部数をご用意の上、当日開始までに各部屋後方のコーナーに置いて下さい。大会実行委員会では追加の印刷はできかねますので、ご了承下さい。事前送付することもお控え願います。なお、大会校では印刷機やコピー機を使用できません。

### 3. 発表用機材について

発表の際に機材を使用する予定の発表者は、分科会開始前に各自で事前に動作確認を行って下さい。なお、HDMIの接続ケーブルは大会校で用意しますが、それ以外のケーブルやパソコンなどは各自でご用意願います。

### 4. 発表辞退について

やむを得ない事情で発表を辞退される場合は、必ず事前に大会実行委員会までにメールでご連絡下さい。なお、発表辞退に伴う発表時刻の繰り上げは実施しません。

## 自主企画セッション要領

### 1. 発表資料について

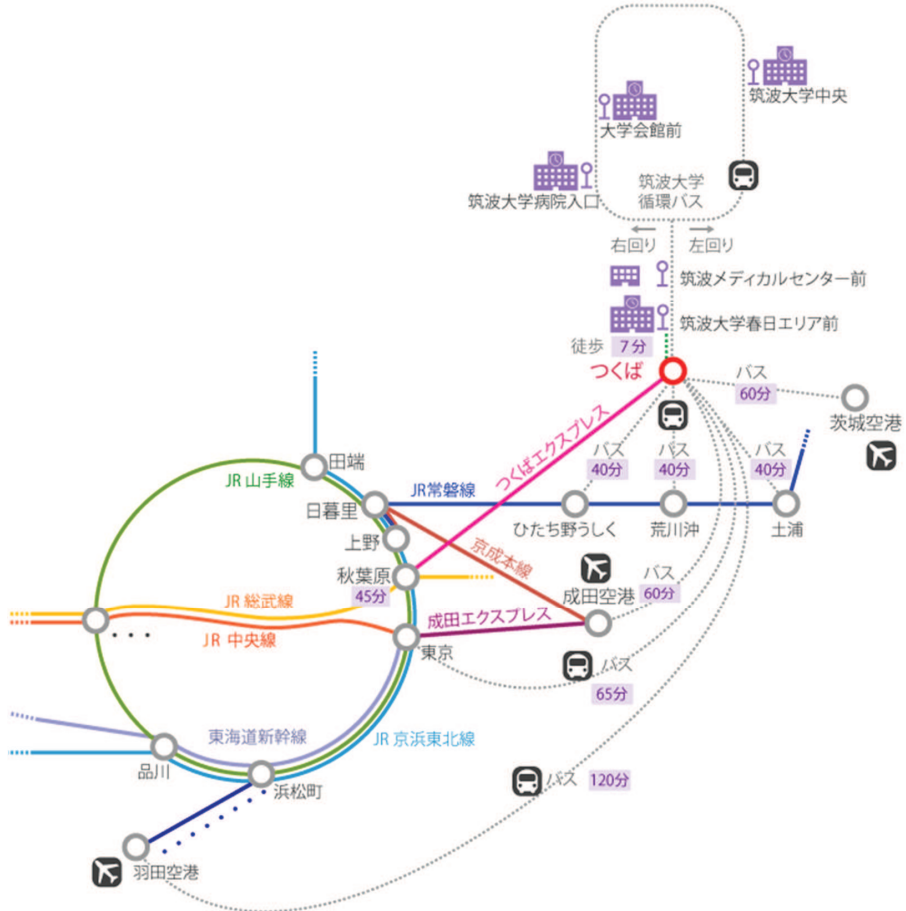
発表資料は、発表者が、ご自身で発表申込システムからアップロードできます。大会参加者は、発表者がアップロードした資料を各自のPCやタブレットなどの端末から閲覧することになります。また、紙媒体で発表資料を配布したい場合は、当日各会場にて企画者が配布して下さい。大会実行委員会では追加の印刷はできかねますので、ご了承下さい。事前に送付することもお控え願います。なお、大会校では印刷機やコピー機を使用できません。

### 2. 発表用機材について

機材を使用する場合は、開始前に各自で事前に動作確認を行って下さい。なお、HDMIの接続ケーブルは大会校で用意しますが、それ以外のケーブルやパソコンなどは各自でご用意願います。

# 筑波大学へのアクセス

所在地：筑波大学筑波キャンパス(〒305-8572 茨城県つくば市天王台1丁目1-1)



## (1) 電車をご利用の場合

① 大学の最寄り駅は、つくばエクスプレス「つくば」駅(つくばセンター)となります。

\* 「秋葉原」駅から、つくばエクスプレスの快速で終点「つくば」駅までは約 45 分です。

② 「つくば」駅前のつくばセンターバスターミナルの 6 番バス乗り場より、関東鉄道バス「筑波大学循環(左回り)」もしくは「筑波大学循環(右回り)」にご乗車いただき、「筑波大学中央」バス停にて下車してください。

\* 「筑波大学中央」までの所要時間は、「筑波大学循環(左回り)」で約 15 分、「筑波大学循環(右回り)」で約 20~25 分です。

\* 休日ダイヤのため、バスは 20 分に 1 本の間隔となります。ご了承ください。

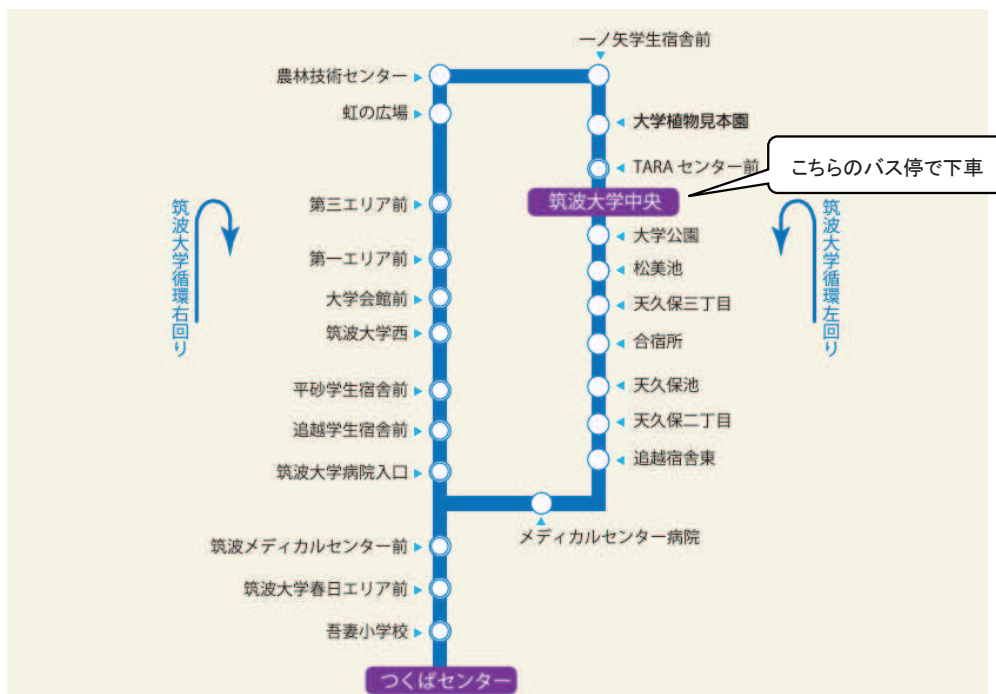
\* バスの時刻表は、関東鉄道バスの以下のページからご覧いただけます(6 番乗り場の時刻表をご参照ください)。

<https://kantetsu.jorudan.biz/?p=d&sc=41616&pn=6&v=&b1=%E3%81%A4%E3%81%8F%E3%81%B0%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC&m=b>

\* 駅からはタクシーもご利用いただけます。



## 大学循環バス停留所(つくばセンター⇄筑波大学中央)



### (2) 高速バス(つくば号)をご利用の場合

「東京」駅からは筑波大学行き的高速バスが便利です(交通系 IC カードも利用可能です)。「東京」駅八重洲口から「つくば号」にご乗車し、終点「筑波大学」のバス停にて下車してください(所要時間約 75 分)。

帰りの東京駅行き的高速バスは、交通状況により遅れる場合があります(所要時間約 90 分)。ご注意ください。

高速バスの詳細や時刻表は、以下のページをご参照ください。

<https://www.kantetsu.co.jp/highwaybus/tsukuba-tokyo>



### (3) お車でお越しの場合

常磐道「桜土浦」インターより、約 8km (所要時間: 約 20 分) です。

①常磐道「桜土浦」I.C.を下車し、筑波方面に向かってください。

②大角豆(ささぎ)交差点を右折し、県道 55 号線(学園東大通り)を北に直進してください。

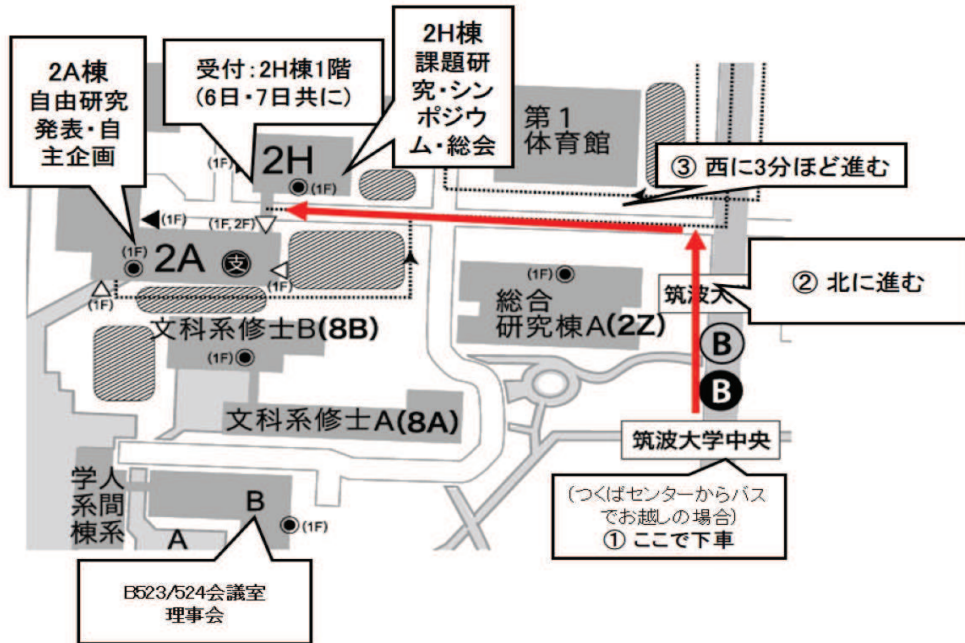
③筑波大学中央入口で左折してください(大きな T 字のモニュメントが目印です)。入口を入ったところの駐車場(K5 本部南ゲート駐車場)に、手続なしでご駐車いただけます。



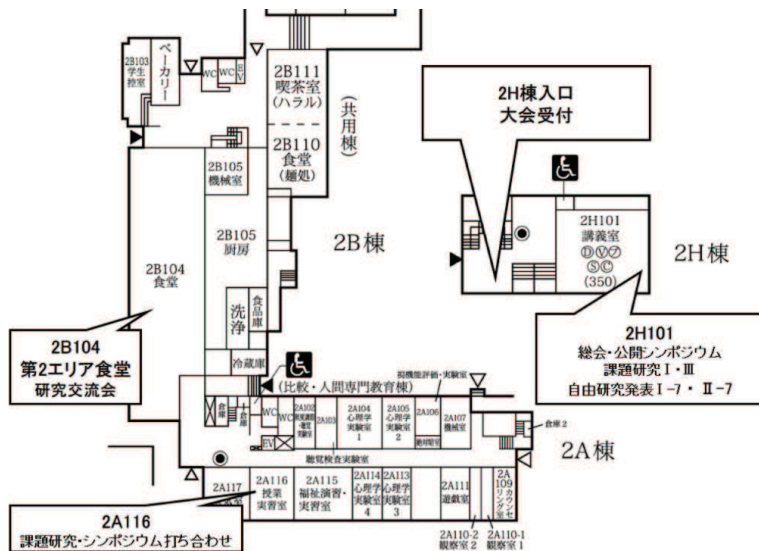
## 大会会場の略地図

7月6日(土)・7日(日)両日ともに、受付は2H棟1階入り口となります。  
 循環バス・高速バスでお越しの場合は、「筑波大学中央」(高速バスの場合は「筑波大学」)バス停で下車し、下記の地図に沿って受付までお進みください。お車でお越しの場合も、駐車場から「筑波大学中央」バス停に向かい、受付までお進みください。

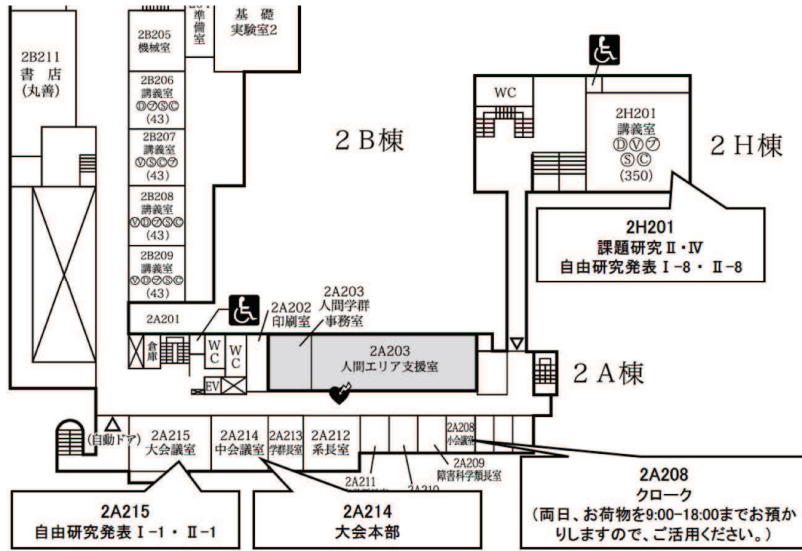
〈会場まで/会場全体図〉



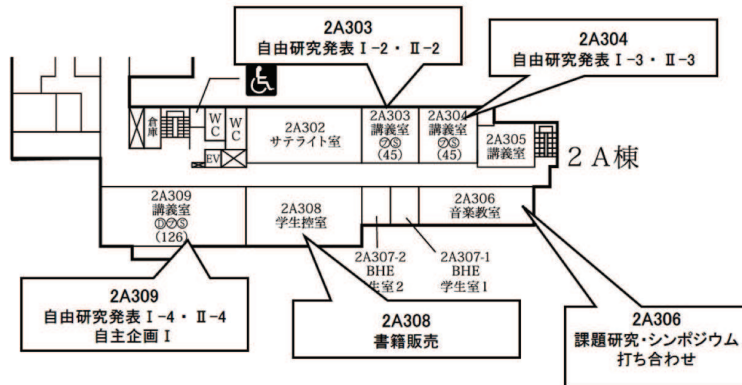
〈1階〉



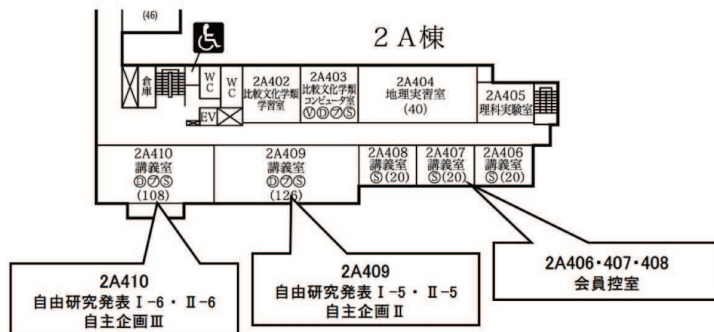
〈2階〉



〈3階〉



〈4階〉



MEMO

---

不登校児童生徒数が過去最高とも言われる中で、多様な教育機会の確保に向けて「学びの多様化学校」の設置が促進されるなど、多くの子どもが通いやすくなる学校のカリキュラムのあり方が模索されている。「学びの多様化学校」では、不登校児童生徒等の実態に配慮した、特別の教育課程を編成できることが知られている。そこで、本課題研究では、今日における多様な学びとは何か、多くの子どもが通いやすくなる学校とはいかなるカリキュラム構成・実践なのか、さらにそのような学びの試みにはいかなる課題があるのか、といった問いを検討する。

そのため、本課題研究では、多様な学びに関する実践的な試みについて、幼児教育とイェナプラン教育のコンセプトを取り入れて実践を行なっている「学びの多様化学校」の校長より報告いただく。また、生活と授業という観点から、不登校の子どもを含めて多様な子どもたちがいる公立小学校での取り組みにも触れながら、多くの子どもが通いやすくなる学校のカリキュラムについて検討する。さらに、多様な子どもたちに対応した多様な学びの試みが、公正という観点から見た時、いかなる質や構造を持つのかについて、課題を含めて検討したい。

#### <発表者>

- ・ 幼児教育とイェナプラン教育のコンセプトを取り入れた学びの多様化学校の成果と課題  
高橋元気（ろりぼっぷ学園ろりぼっぷ小学校、非会員）

- ・ 現代の小学校における生活と授業と子どもの表現

川地 亜弥子（神戸大学）

- ・ 社会的公正を志向する公教育と多様な学びの意味論

澤田 稔（上智大学）

#### <司会・コーディネーター>

- ・ 子安 潤（愛知教育大学名誉教授）
- ・ 奥村 好美（京都大学）

第1日（7月6日）9：30～11：30

課題研究Ⅱ

授業研究とカリキュラム研究との接点の探求 -国際比較研究の視点から-

2H201

本課題研究の経緯は、日本カリキュラム学会と少なからず関係がある World Association of Lesson Studies (WALS) の学会長 Catherine Lewis 氏から本学会紀要 (Vol.33) への寄稿論文「Japanese Curriculum Study: Can It Leverage Change Around the World?」に端を発する。その Lewis 論文が、Lesson Study と Curriculum Study (カリキュラム研究) との「接点領域」を論じたことをふまえ、本課題研究の契機となった。

我が国の授業研究 (校内研修) は、明治時代の義務教育の普及とともに 100 年以上の歴史を持つとされ、とりわけ 1990 年代から授業研究 (校内研修) が Lesson Study として「輸出」され始め、教育学研究の国際的分野でも注目されてきた。よって、本課題研究では、本学会の目的である「カリキュラムの理論と実践に関する学術的、国際比較的、総合的研究の発展と、それによる日本の教育の振興 (会則 1 章 2 条)」の一助となり得る視点から、Lesson Study (授業研究・校内研修) と Curriculum Study (カリキュラム研究) との「接点的研究」について理論的・実践的に論じることとした。

そこで、まずは Lewis 氏にオンライン登壇 (基調講演) をして頂き、その論調を受けて参加者、発表者、指定討論者、司会者とともに本課題研究の議論を深めていく。

なお、本課題研究から得られる知見をふまえ、その発展に位置づく次年度は、更に授業研究とカリキュラム研究の「接点領域」を理論的に総括していく。その際、「プラグマティズムの教育思想と実践 (アメリカ・ドイツ・アジア諸国等)」に特化して、我が国の理論と比較検討を進める予定である。

<発表者>

- ・ Japanese Curriculum Study: Can It Leverage Change Around the World?

Catherine C. Lewis (Mills College at Northeastern University)

(President, World Association of Lesson Studies)

通訳：草薨 佳奈子 (名古屋大学)

- ・ Curriculum (re) design における Lesson Study の可能性と課題

北田 佳子 (埼玉大学)

- ・ 学校を基盤とする (School-Based) Curriculum Study と Lesson Study の一考察

倉本 哲男 (静岡文化芸術大学)

<指定討論者>

松下 佳代 (京都大学)

<司会・コーディネーター>

藤本 和久 (慶応義塾大学)

第1日（7月6日） 12：30～15：00

自由研究 I - 1

2A215

司会 澤田 稔（上智大学）  
中野 和光（美作大学）

- 12：30 台湾における多文化教育カリキュラムの構造  
ーコンピテンシー・ベースの「本土化」としてー  
山下 大喜（山口大学）
- 12：55 スウェーデンの「みんなのための学校（En Skola för Alla）」  
ー統合から包摂に焦点をあててー  
戸野塚 厚子（宮城学院女子大学）
- 13：20 日本におけるホームスクールの教育実践  
ー家族会アンケートのデータ分析よりー  
岡田 佳子（長崎大学）
- 13：45 大阪府の公立学校における国際クラブと学校カリキュラムの意義  
ー外国につながるのある子どもが多く通う小・中学校校長への聞き取りをめぐってー  
磯田 三津子（埼玉大学）
- 14：10 「外国人児童生徒受入れの手引」の批判的検討  
ー日本語指導から学校カリキュラムへの転換を見すえてー  
南浦 涼介（広島大学）
- 全体討議（14:35～15:00）

自由研究 I - 2

2A303

司会 西岡 加名恵（京都大学）  
山田 雅彦（東京学芸大学）

- 12：30 知的好奇心を育成するカリキュラム  
～報酬学習フレームワーク及び CiC フレームワークによる検討を通して～  
安達 心（筑波大学大学院）
- 12：55 イエナ・プランにおける評価改革に関する研究  
安藤 和久（広島大学）
- 13：20 放課後プログラムに従事する高齢ボランティアのための研修内容と評価の検討  
ー児童のライフスキルの向上を焦点としてー  
諏澤 宏恵（花園大学）
- 13：45 モンゴルの中高等教育におけるリテラシー教育  
ー国語科における読むことの育成の視点からー  
ビヤムバスレン エンフゲレル（名古屋大学）
- 14：10 表現主義におけるカリキュラムの基本構造  
ーアカデミックとパーソナルをつなぐライティング・プロセスー  
森本 和寿（大阪教育大学）
- 全体討議（14:35～15:00）

司会 子安 潤（愛知教育大学名誉教授）  
柳田 雅明（青山学院大学）

- 12：30 遠隔合同授業による授業改善と人材育成  
～へき地・小規模校での学校課題改善に向けて～  
佐々木 裕美子（久慈市立久喜小学校）
- 12：55 キャリア教育を充実させるカリキュラム・マネジメント  
—四半期ごとに資質・能力を明確化した指導と評価の工夫—  
荒川 文雄（棚倉町教育委員会）
- 13：20 学びを地域社会に生かす「学力の市民化」プロセス  
—京都北部の府立高校生と記者による川探究を事例に—  
安部 拓輝（筑波大学大学院）
- 13：45 コミュニティ・ベースド・カリキュラムをなぜ・どのように開発するか  
—対話を通じた共同開発・共同実施・共同改善モデルの批判的検討を通して—  
○川口 広美（広島大学）  
草原 和博（広島大学）
- 14：10 職業教育カリキュラムの高度化をめぐる言説  
—マイスター・ハイスクール指定校の研究実施報告書の分析を通して—  
岡部 善平（小樽商科大学）

全体討議（14:35～15:00）

司会 柴田 好章（名古屋大学）  
金 瑠淑（聖徳大学）

- 12：30 真正のパフォーマンス課題を応用した音楽の学習  
徳富 健治（東京学芸大学附属竹早小学校）
- 12：55 小学校社会科教科書を活用した「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」  
の可能性  
高橋 伸明（笠岡市立笠岡小学校）
- 13：20 「安全科」におけるカリキュラム再編の実践  
—子供との応答を通じた改善に向けて—  
末廣 彩華（大阪教育大学附属池田小学校）
- 13：45 経験と学問を関係付けるカリキュラムの指導と評価の在り方  
○藤澤 大地（香川大学教育学部附属高松小学校）  
○横溝 真伍（香川大学教育学部附属高松小学校）

全体討議（14:35～15:00）

第1日（7月6日） 12：30～15：00

自由研究 I - 5

2A409

司会 二宮 衆一（和歌山大学）  
林 尚示（東京学芸大学）

- 12：30 道徳科と関連付けたいじめ防止のアプローチ  
中野 真悟（愛知学泉大学）
- 12：55 天文シミュレーション Mitaka（国立天文台）を用いた中学校天体授業の教育的効果  
—タブレット PC を活用した授業実践を通して—  
橋本 美彦（中部大学）
- 13：20 協働的な学びにみる思考の性向の現れ  
—中学校数学科の授業におけるグループ談話の分析から—  
豊島 まり絵（東京大学大学院）
- 13：45 知性と省察性を育むことを軸にしたカリキュラム開発  
—MIRAI「個の学び」の実践とその評価について—  
○桑城 光（香川大学教育学部附属高松中学校）  
○左海 亮（香川大学教育学部附属高松中学校）
- 全体討議（14:35～15:00）

自由研究 I - 6

2A410

司会 森 久佳（京都女子大学）  
安井 一郎（獨協大学）

- 12：30 デューイ実験学校におけるレシテーション  
伊藤 敦美（長岡技術科学大学）
- 12：55 進歩主義教育協会「8年研究」のカリキュラム開発  
—普通教育のカリキュラム構想—  
水原 克敏（東北大学名誉教授）
- 13：20 教育課程審議会史に関する基礎的研究（4）  
—教育課程審議会への文部大臣諮問—  
丸山 剛史（宇都宮大学）
- 13：45 東京女子高等師範学校附属小学校における「共同研究」の提唱  
—児童教育研究会の設立とその構想—  
遠座 知恵（東京学芸大学）
- 14：10 アメリカのカリキュラム概念と日本  
浅沼 茂（放送大学）
- 全体討議（14:35～15:00）



第1日（7月6日） 12:30～15:00

自由研究 I - 7

2H101

司会 根津 朋実（早稲田大学）  
浅野 信彦（文教大学）

- 12:30 学校の自立性を育てるカリキュラム・マネジメントの伴走型支援のあり方  
—鳥羽小学校パールカリキュラムのアクションリサーチから—  
岸田 蘭子（滋賀大学）
- 12:55 産学連携により、未来に生きる新しい価値を「共創」するカリキュラムの構築とその普及  
北尾 悟（奈良女子大学附属中等教育学校）
- 13:20 「理論と実践の架橋・往還」を促す教職大学院の授業カリキュラムデザイン  
—授業カリキュラム構成と振り返り支援方法に着目して—  
兵藤 清一（愛媛大学）
- 13:45 学校のカリキュラム・マネジメント推進のための各種研修等の活用と教育センター等の支援  
～校長及び研修担当指導主事へのインタビューを通して～  
○村川 雅弘（甲南女子大学）  
○石田 有記（日本体育大学）  
○八鈕 明美（知多市立新知小学校）

全体討議（14:35～15:00）

自由研究 I - 8

2H201

司会 奥村 好美（京都大学）  
千々布 敏弥（国立教育政策研究所）

- 12:30 児童が自ら学びを選択し、心から安心して学習できる授業づくり  
—チーム学校にもとづく教科担任制の試行プロセス—  
山口 博功（大阪市立平林小学校）
- 12:55 「チーム担任制」は教員の意識にどのように影響するのか  
—教員を対象とした質問紙調査の結果をもとに—  
安藤 福光（兵庫教育大学）
- 13:20 スクールリーダー研修会における研修プログラムの効用  
○磯部 征尊（愛知教育大学）  
伊藤 大輔（秋田県立大学）  
倉本 哲男（静岡文化芸術大学）
- 13:45 伴走？指導？共創？  
—教師間、教師・生徒間における認識の「ずれ」—  
○松尾 奈美（島根大学）  
○宮本 勇一（岡山大学）

全体討議（14:35～15:00）

中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（2021年）においては、個別最適な学びと協働的な学びの実現という方向性が示された。これをふまえて、幼保小の架け橋プログラム、小学校の教科担任制、特異な才能のある児童生徒に対する指導、高等学校におけるスクール・ミッション／ポリシー、1人1台端末によるデジタル教科書や遠隔授業、質の高い教師の確保やスクール・サポート・スタッフの活用といった、具体的な方策が検討されている。また国際的には、OECD「ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」（2019年）やUNESCO『教育の未来』国際レポート」（2021年）が公表され、「ウェルビーイング」の向上や「エージェンシー」の発揮が重視されている。

このような状況をふまえて、これからの教育や学校では何を目指し、どのような教育目標や内容および方法を構築していけばよいであろうか。本シンポジウムでは以上の問題関心にもとづいて、ポスト資質・能力時代におけるカリキュラムのゆくえや方向性について議論する。具体的には、国内のカリキュラムや歴史の研究者、ドイツをはじめとする海外教育の研究者、茨城県の高校教育施策と実践に携わっている学校長の3名にご報告いただくとともに、指定討論者からの質問や意見も交えて全体討論へとつなげたい。

2022年より研究協力者会議「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」も進められ、次期学習指導要領の改訂作業も近日中に始まることが予想される。本シンポジウムにおける議論を通して、学問的な知見をふまえた本学会としてのカリキュラム構想や提言の場となることを期待したい。

#### <登壇者>

- ・学習指導要領改訂の「ゆくえ」をめぐって  
－「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」の議論から－

富士原 紀絵（お茶の水女子大学）

- ・コンピテンシー志向のカリキュラム改革の帰結  
－子どもによるカリキュラム探究の実践としての授業研究－

吉田 成章（広島大学）

- ・地域と連携した情報科専科高校の立ち上げ  
－特別活動・課外活動を核とした学校運営を目指して－

津賀 宗充（茨城県立 IT 未来高等学校、非会員）

#### <指定討論者>

- ・伏木 久始（信州大学）

#### <司会・コーディネーター>

- ・島田 希（大阪公立大学）
- ・樋口 直宏（筑波大学）

第2日（7月7日）9：30～11：30

自由研究Ⅱ－1

2A215

司会 黒田 友紀（日本大学）  
桐谷 正信（埼玉大学）

- 9：30 P.B.ユーマツハラによる CRISPA アプローチの意義と課題  
岡村 亮佑（京都大学大学院）
- 9：55 国際バカロレア(IB) DP の「知の理論(TOK)」の授業作り  
—答えのない、曖昧さや不確実性に生徒を触れさせる授業のデザイン—  
松崎 秀彰（筑波大学大学院）
- 10：20 カナダ・オンタリオ州における批判的思考力を育むカリキュラム  
—2023年改訂「英語」カリキュラムの分析から—  
森本 洋介（弘前大学）
- 10：45 米国小学校実力教師のゲートキーピング  
—C3フレームワーク・州スタンダードと授業実践の分析から—  
酒井 喜八郎（南九州大学）

全体討議（11:10～11:30）

自由研究Ⅱ－2

2A303

司会 牛田 伸一（創価大学）  
吉田 茂孝（大阪教育大学）

- 9：30 ドイツの学校プログラムに関する事例研究  
—NRWの基礎学校の事例分析—  
的場 正美（愛知文教大学）
- 9：55 ドイツの政治教育とイスラーム  
—社会情勢に照らした政治科のカリキュラム分析—  
寺田 佳孝（東京経済大学）
- 10：20 教育のデジタル化とカリキュラム改革  
—ドイツにおける教育スタンダード改訂を通して—  
○高橋 英児（山梨大学）  
○樋口 裕介（福岡教育大学）  
○高木 啓（千葉大学）

全体討議（11:10～11:30）

第2日（7月7日）9：30～11：30

自由研究Ⅱ－3

2A304

司会 草原 和博（広島大学）  
緩利 誠（昭和女子大学）

- 9：30 「歴史的な見方・考え方」のメタ認知を促すワークシートの構造  
—カナダ・TC2が開発したツールキットの場合—  
玉井 慎也（北海道教育大学釧路校）
- 9：55 学校数学カリキュラムにおける「ねじれ」の社会システム理論的解明  
—「数とは何か」をめぐる論争に着目して—  
堀下 健太郎（八女市立黒木小学校）
- 10：20 被爆教師における平和教育の内容構成  
—原爆を教材化する4つの視点—  
外池 彩萌（筑波大学大学院）
- 10：45 子ども自らが学ぶ授業における授業と教材（学材）【発表取り下げ】

内田 卓雄

全体討議（11:10～11:30）

自由研究Ⅱ－4

2A309

司会 工藤 文三（浦和大学）  
吉富 芳正（明星大学）

- 9：30 学校種を越えた「越境」型カリキュラムの開発と実践に関する研究  
—広島大学附属学校園研究推進委員会の共同研究を踏まえて—  
吉田 成章（広島大学）
- 9：55 学習指導要領/カリキュラム・マネジメントの再検討  
—School-Based Curriculum Managementの視点から—  
倉本 哲男（静岡文化芸術大学）
- 10：20 経験から価値を見出すカリキュラムの指導と評価の在り方  
○鶴川 護（香川大学教育学部附属高松小学校）  
○水口 純（香川大学教育学部附属高松小学校）

全体討議（11:10～11:30）

第2日（7月7日）9：30～11：30

自由研究Ⅱ－5

2A409

司会 金馬 国晴（横浜国立大学）  
木村 範子（筑波大学）

9：30 新時代の郷土教育から、川口プランの成立へ  
～神奈川県橘樹郡田島小学校の郷土教育から、埼玉県川口プランへのつながりを  
中心に～

中山 正則（筑波大学大学院）

9：55 頌栄幼稚園における和久山きその保育研究・実践の特質  
－ネイチャー・スタディの影響を中心に－

永井 優美（東京成徳短期大学）

10：20 大正新教育期の小学校教員による表現教育の研究ネットワーク  
－創作手工協会を中心にして－

○望月 ユリオ（東京学芸大学）

○橋本 美保（東京学芸大学）

全体討議（11:10～11:30）

自由研究Ⅱ－6

2A410

司会 石井 英真（京都大学）  
天笠 茂（千葉大学名誉教授）

9：30 肯定的な数学的アイデンティティ形成をめざした教員養成カリキュラムの実施と  
その成果

○神原 一之（武庫川女子大学）

矢野 裕俊（武庫川女子大学）

9：55 大学生の作成問題等から読み取れる情報倫理やAIに関する意識  
－情報倫理に関する教育内容と方法の改善に向けて－

小柳 和喜雄（関西大学）

10：20 教育委員会指導主事の資質・能力に対する意識調査研究  
－小学校長・中学校長・指導主事を対象として－

○宮下 治（文教大学）

倉本 哲男（静岡文化芸術大学）

10：45 次期学習指導要領の改訂に向けて  
－キー・コンピテンシーの終焉とその後に来るもの－

磯田 文雄（花園大学）

全体討議（11:10～11:30）

第2日（7月7日）9：30～11：30

自由研究Ⅱ－7

2H101

司会 京免 徹雄（筑波大学）  
大村 龍太郎（東京学芸大学）

9：30 小中接続の不登校課題解消に向けた道徳的判断力向上のための道徳教育カリキュラムの検討

作田 澄泰（九州女子大学）

9：55 台湾の農村部における小学校の食育カリキュラム開発の実践  
—教員専門職性の変化に注目して—

林 明煌（台湾・国立嘉義大学）

10：20 学校を基盤とするカリキュラム開発の持続的な発展に資するリーダーシップ実践  
—英国の学校における事例の分析に基づいて—

○木原 俊行（四天王寺大学）

○島田 希（大阪公立大学）

全体討議（11:10～11:30）

自由研究Ⅱ－8

2H201

司会 山崎 保寿（静岡大学名誉教授）  
森田 司郎（専修大学）

9：30 総合的な学習の時間におけるカリキュラムの創発  
—公立小学校における教員の知識創造プロセスのインタビュー分析を通して—

長浜 佐知子（奈良教育大学教職大学院）

9：55 「総合的な学習の時間」を重視する小学校におけるミドルリーダーの役割  
—校内研修に着目して—

○佐藤 浩輝（明野五葉学園）

浅野 信彦（文教大学）

10：20 共同体と個人を往還する探究的な学びを目指す総合学習のカリキュラム  
—鹿児島大学教育学部附属小学校の実践を事例に—

○祁 白麗（鹿児島大学）

○廣瀬 真琴（鹿児島大学）

全体討議（11:10～11:30）

教育のデジタル・トランスフォーメーション（DX）が語られ、生成AI（人工知能）技術が急速に進展するデジタル社会における情報との向き合い方が、学校教育においても問われてきている。デジタル社会は、情報の検索、通信、保存といった面で非常に便利な側面があると同時に、個人情報の漏洩、犯罪・誹謗中傷に巻き込まれる恐れ、人や物と直接関係する力の劣化、監視社会化、等といった子どもたちにとって危険な側面を持っている。本課題研究では、こうした「デジタル社会の危険性」を視野に入れ、先端情報通信技術（生成AI、メタバース、教育データ利活用 EdTech ほか）を活かし、未来を生きる子どもたちを人間社会の健全な構成員として育てていくためには、学校カリキュラムはいかにあるべきかを ELSI（Ethical, Legal and Social Issues: 倫理的・法的・社会的課題）、デジタル・シティズンシップ、批判的リテラシーの視点から検討してみたい。

<発表者>

- ・ AI in Education 時代のナビゲーションとなる倫理的・法的・社会的課題（ELSI）対応方策に向けた取り組み  
加納 圭（滋賀大学、非会員）
- ・ デジタル・シティズンシップの取り組み  
坂本 旬（法政大学、非会員）
- ・ デジタル社会へ挑む学校での批判的リテラシー形成  
竹川 慎哉（愛知教育大学）

<司会・コーディネーター>

- ・ 中野 和光（美作大学）
- ・ 小柳 和喜雄（関西大学）

第2日（7月7日） 13：30～15：30

課題研究Ⅳ

カリキュラムの「不易と流行」を語るⅤ－研究としての‘面白さ’を語り合う－

2H201

カリキュラムにかかわるキーワードに関して、その分野・領域の先輩研究者の方々に、その研究対象に対する思いや姿勢、配慮すべき事柄等を中堅・若手に語っていただく。それを受けて、中堅・若手研究者がその研究対象に関するかかわり方や抱負等を述べ、協議を通して研究的な示唆を得る。

今回は、元代表理事（2005年から2008年）の田中統治先生をお迎えし、「研究としての‘面白さ’を語り合う」をテーマとしてご発表いただく。あわせて、指定討論者として菊地かおり先生にご登壇いただき、議論の充実を図ることとしたい。

<発表者>

- ・研究としての‘面白さ’を語り合う

田中 統治（東海大学）

<指定討論者>

- ・菊地 かおり（筑波大学）

<司会・コーディネーター>

- ・川地 亜弥子（神戸大学、広報・若手育成委員会）
- ・高橋 亜希子（南山大学、広報・若手育成委員会）



カリキュラムを通じて「未来」はどのように計画されている／されてきたか  
—ドイツ教授学のアクチュアリティⅡ—

2A309

「将来の変化を予測することが困難な時代が到来しつつあり…」 「これからの変化の激しい社会…」 「多様化・複雑化しつつある社会状況…」 ——云々。なぜかくも、未来についての語りは教育に氾濫するのか。またなぜ昨今では、VUCA などと嘯かれる未来語りが教育言説の枕詞として横溢しているのか。それは教育が、その性質からして常に未来に開かれている営みだからであろう。しかしそうだとすれば、上記のような非知(Nichtwissen)の語りは「未来はどうなるかわからない」と言っているに過ぎないし、かつ現在から見た未来像を願望と不安交じりに投影しているだけのようにも思われるし、結局のところ、不確実な未来を確実に予測する点で「未来…における現在の中で何が生じるかは、われわれが今現在において下さねばならない決定に依存している」(Luhmann 1992=馬場(訳)2003: 98)としかいいようがない。

他方で、教育や学校、そしてカリキュラムとは、子どもたちが身に付けるべき力や知識を選ぶことで未来の姿を先取りする点で、常に未来性と計画性が本来的にプログラム化されているのではないだろうか。そのように考えるとき、カリキュラムにおける「未来」を計画することの意味とはどのように考えることができるだろうか。本ラウンドテーブルでは、カリキュラムが避けて通ることはできない、「未来」を計画するという営為に対してどのように批判的検討を加えるか——これについて、ドイツ教授学を専門とする報告者たちの所感を発信する。本ラウンドテーブルを通して、ドイツ教授学が持つ(はずの)アクチュアリティについて、フロアと共有していきたい。

<企画者>

- ・市川 和也（鳥取大学）
- ・松田 充（兵庫教育大学）
- ・宮本 勇一（岡山大学）

<発表者>

- ・趣旨説明  
—教育改革の時間構造と「現在の収縮」—

宮本 勇一（岡山大学）

- ・「計画」とカリキュラム  
—S. B. ロビンゾーンのカリキュラム改訂案を事例とした検討—

市川 和也（鳥取大学）

- ・計画不可能なものの計画：「社会問題の教育化(Pädagogisierung sozialer Problemen)」  
—教育における再帰的な改革の駆動因を探る—

田中 怜（筑波大学）

<司会>

- ・熊井 将太（安田女子大学）
- ・松田 充（兵庫教育大学）

ライティング教育の可能性  
——アカデミックとパーソナルを架橋する——

伝統的に、書くことは、教育という営みの中心に位置付けられてきた。とりわけ、アカデミック・ライティングは、論理的な思考と表現を生み出す行為であるため、教育の重要な手段であると同時に、重要な目的であり続けてきた。公教育では、このようなアカデミック・ライティングの指導に焦点が合わせられることが多いが、ライティングは、必ずしもアカデミックなものに限定されるものではない。

教育では、さまざまな意図や目的で、さまざまなタイプのライティングが行われる。例えば、より幅広い人間形成を意図して、パーソナル・ライティングをはじめ、日記、感想文、物語文などジャンルに基づくライティングは多岐にわたる。ライティングの教育は、書き方に関するテクニカルな指導にとどまらず、自分の人生や書きたいことを見つめる中で、今を生き、未来を生きることへ繋がっていくものでもある。

そこで本企画では、ライティング（書くこと）を教えること・学ぶことの人間にとっての意味について考察する。アカデミック・ライティングの意義やその評価のあり方に関する議論を含みこみつつ、しかし、「ライティング教育＝アカデミックな文章の技術指導」という狭い見方に限定されず、人間形成全体におけるライティング教育の可能性を探る。アカデミック・ライティング、パーソナル・ライティングを両側面から包括的に検討対象とすることで、両者を架橋していくことを目指す。

<企画者>

- ・森本 和寿（大阪教育大学）
- ・松下 佳代（京都大学）

<発表者>

- ・ライティング教育の系譜：古典主義とロマン主義の邂逅  
森本 和寿（大阪教育大学）
- ・ライティングを価値づけること  
石田 智敬（神戸大学）
- ・対話型論証を超えて：分析と潜入  
松下 佳代（京都大学）
- ・生活綴方における表現指導と生活指導  
川地 亜弥子（神戸大学）

<指定討論>

- ・八田 幸恵（大阪教育大学）

<司会>

- ・田野 茜（京都大学大学院）

TPチャートを作ろう！  
～省察による教師の授業理念の抽出～  
（小・中・高・大学教員対象）

D. ショーン著の *The Reflective Practitioner* の発刊以来、授業の省察が小・中学校・高校・大学で注目されている。栗田佳代子氏（東京大）は、セルディンのもとで学び、高等教育における TP（ティーチング・ポートフォリオ）作成のためのツールとして、TPチャートを開発した。これは、TP、TS（ティーチング・ステイトメント）作成のためのツールとしてだけでなく、教師が日頃の取り組みを省察し、次の課題を考える上で優れている。また、教師だけでなく、教育系の学生にとっても、実習の取り組みはもちろん、日頃の大学生活の取り組みを振り返る良い機会となるだろう。実際、自分の勤務する大学の学生や、他大学の学生、海外の留学生に対しても実施してみたところ、好評であった。今後は、小・中・高・大の教育関係者への普及はもちろん、国内、海外の教育系の学生たちへの普及も課題であるとする。

自主企画をした私自身、大学 FD の係として、TP 普及を根付かせるために、3年間かけて試行錯誤した。1年目は、栗田氏の主催する研修会への Zoom による参加（当日の私のペアは医学部の先生であったが、他学部の先生の日頃の取り組みの省察から学ぶことが多かった。2年目は、FD 委員同士での練習、3年目は、学内全体での Zoom による FD の研修会の実施をなんとか遂行して、少しずつ進行役に慣れることができた。

このように、3年間を見通した3段階のステップにより、受講者へ TPチャートの良さを体感してもらい、さらに TS 作成へつなげていくことができた。そこで、日本カリキュラム学会の自主企画で、参加者に TPチャートを作成してもらい、その後、ディスカッションを行い、教員にとっての授業実践等の省察や学生にとっての学習・生活の省察としての TPチャートの有効性を検討したい。当日は、校種問わず気軽にご参加下さい。

<企画者>

- ・酒井 喜八郎（南九州大学）

<ファシリテーター>

- ・酒井 喜八郎（南九州大学）

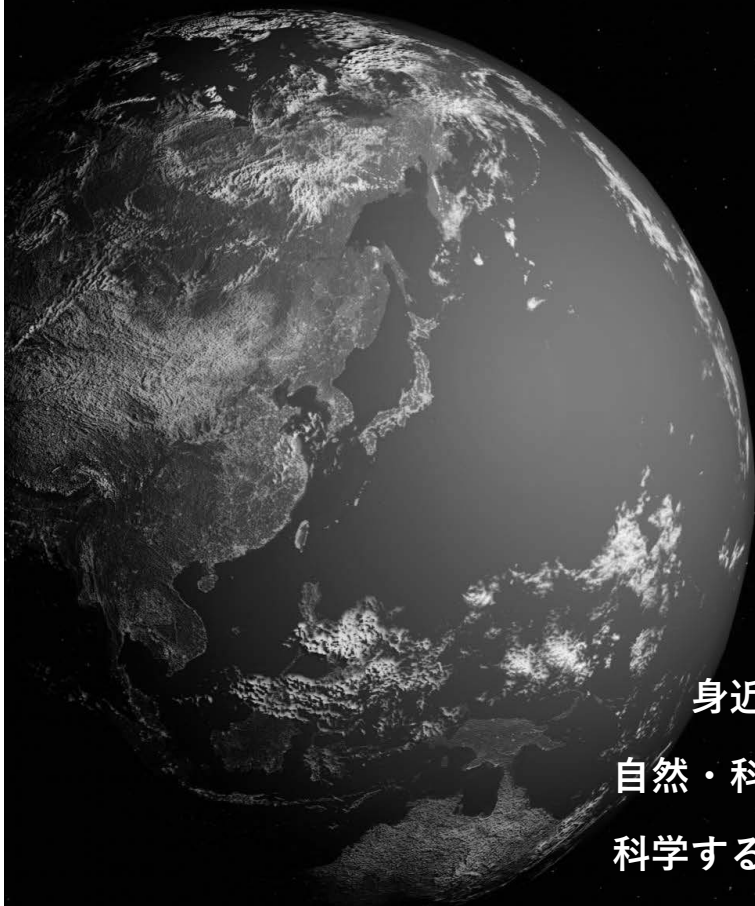
<参考文献>

- ・栗田佳代子・吉田壘（2021）『リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ：チャート作成講座』哲学書院 p.110.
- ・栗田佳代子・吉田壘（2022）「教育活動の振り返りを目的としたティーチング・ポートフォリオ・チャートおよび作成研修の開発と評価」『高等教育開発』 1 (0), pp.19-27.

祝

日本カリキュラム学会 第35回大会

# 子どもたちの未来へ



身近にある不思議から  
自然・科学への関心を高め  
科学する心をはぐくみます



21世紀の社会を築く子どもたちに  
「豊かな感性」と「確かな学力」を

— 知が啓く。 —  
**啓林館**

本社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号  
東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号  
北海道支社 〒060-0062 札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階  
東海支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階  
広島支社 〒732-0052 広島市東区光町1丁目10番19号日本生命広島光町ビル6階  
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号 ハイヒルズビル5階

電話(06)6779-1531  
電話(03)3814-2151  
電話(011)271-2022  
電話(052)231-0125  
電話(082)261-7246  
電話(092)725-6677

<https://www.shinko-keirin.co.jp/>

祝 日本カリキュラム学会 第35回筑波大学大会

# 学ぶよろこびを いつでも どこでも だれにでも

## 未来を担う“人”を育てるという社会的使命

東京書籍は「教育と文化を通じて人づくり」を存在意義と捉え、未来を担う子どもたちの学びと成長のために、そしてその子どもたちを支えておられる先生方のために、少しでもお役に立ちたいという気持ちで仕事に取り組んでいます。教科書づくり110年を超える歴史と伝統を礎に、「学ぶよろこびを いつでも どこでも だれにでも」のビジョンのもと、サポートの質を高め、深めることに努めてまいります。



関東支社 〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1  
Tel : 03-5390-7467 Fax : 03-5390-6017

ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp>

教育情報サイト 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

## 教育による包摂／排除に抗する児童福祉の理念

高田俊輔 著

児童自立支援施設の就学義務化から  
非行少年を対象とする入所型の児童福祉施設であり、少年院と児童養護施設の折衷を  
担ってきた、児童自立支援施設の実践と変遷を探る。▼四六判上製・三〇〇頁・四〇〇〇円

## 正統的周辺参加としての社会科教育の展開

本田正一 著

工場立地や安本法制といった多様なテーマから、正統的周辺参加論やアンラーニング概  
念の視座で市民社会に参加しうる教育を検討する。▼A5判上製・二七二頁・四〇〇〇円

## アンリ・ワロンの精神発生学と人間発達研究

亀谷和史 著

その思想と理論の現代的意義を探る  
二〇世紀初頭から半ばにかけて心理学研究に携わったアンリ・ワロンの人間発達思想  
を、〈精神発生学〉の構想という観点からひもとく。▼四六判上製・三〇〇頁・四二〇〇円

## 一般科学教授学綱要

デイトリッヒ・ペンナー 著／牛田伸一 訳

教員養成・授業・研究のための基礎と方向づけ  
学ぶ者の経験や意味は科学によって一般化できるか。この知識形式やパラダイムに位置づ  
けられない、科学を通じた陶冶を教育から導く。▼A5判上製・二八四頁・五〇〇〇円

## フンボルトの陶冶理論と教育改革

宮本勇一 著

学問中心カリキュラムの再考  
W・V・フンボルトの思想と学校教授の原理を探究。自己と世界の方法的対峙として  
の陶冶と知の形態としての学問から教育を再考する。▼A5判上製・五五二頁・六〇〇〇円

## 学校と生活を接続する

田中怜 著

ドイツの改革教育的な授業の理論と実践  
70年代以降ドイツの学校教育改革を検証。教育という営為の両義的な発想を問い、  
多視点を活かす差異に基づく授業構想を提言する。▼A5判上製・二六六頁・四〇〇〇円

## 社会教育における生活記録の系譜

新井浩子 著

戦前戦後の日本各地の生活綴方・生活記録実践の展開を解き明かし、「自身の生活を  
書く・読む」という行為による表現や経験を顧みる。▼A5判上製・四四四頁・四五〇〇円

## 言語教師教育論

B・クワヴァディウエル 著  
南浦涼介・瀬尾匡輝・田嶋美砂子 訳

境界なき時代の「知る・分析する・認識する・為す・見る」教師  
外国語・第二言語の教師教育に向けた包括的なモデルの根拠と本質を再考し、多様な  
言葉の営為のための教育の方向性を見つめる。二題▼A5判上製・三二〇頁・四〇〇〇円



〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 53 横浜市教育会館 3 階  
電話：045-261-3168 / FAX：045-261-3169 info@shumpu.com

http://www.shumpu.com/  
\*表示価格はすべて税別です

## 月刊「教育展望」

毎月1日発行、A5判、64頁、定価493円（448円＋税）

### 2024年 特集

- 7・8月合併号 GIGAスクール構想と学びの姿
- 6月号 「個別最適な学び」「協働的な学び」の現在
- 5月号 地域とともにある学校づくり
- 4月号 社会の多様性と学校教育
- 3月号 学び合いのある豊かな授業づくり
- 1・2月合併号 子どものウエルビーイング、  
学校のウエルビーイング

### 2023年 特集

- 12月号 第52回教育展望セミナー テーマ別報告
- 11月号 第52回教育展望セミナー 全体会報告
- 10月号 発達障害の理解とその対応
- 9月号 主体的な学びを実現する自己調整能力について
- 7・8月合併号 日本の学校教育の現状と変革の方向性
- 6月号 子どもが主体の学びについて
- 5月号 教員の資質・能力の向上に向けて
- 4月号 働き方改革と学校マネジメント

## 「教育展望」臨時増刊

セミナー 研究討議資料

A5判、定価2619円（2381円＋税）

- No.55（第52回教育展望セミナー）  
変革の時代の学校教育を展望するⅢ  
子どもが主体的に学びを深めるための学習指導の在り方Ⅰ  
2023年7月発行、104頁
- No.54（第51回教育展望セミナー）  
変革の時代の学校教育を展望するⅡ  
子どもが主体的に学びを深める学校教育の在り方Ⅰ  
2022年7月発行、104頁

## 教育調査研究所

一般財団法人

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館  
TEL：03-3520-2970 FAX：03-5579-6574  
E-Mail：chouken@estate.ocn.ne.jp

教育課程論・教育方法論・教育実践論を  
1冊にまとめ、  
教師が持つべき実践的指導力の  
基礎を培う教職への入門書。

## 実践に活かす 教育課程論・教育の 方法と技術論

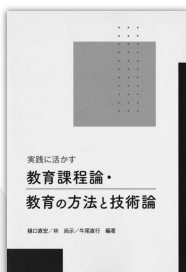
[編著者]

樋口 直宏 (ひぐち なおひろ)  
筑波大学人間系教育学域教授

林 尚示 (はやし まさみ)  
東京学芸大学教育学部教授

牛尾 直行 (うしお なおゆき)  
順天堂大学スポーツ健康科学部准教授

- A5判・224ページ
- 定価2,200円(本体2,000円+税)
- ISBN978-4-7619-2635-9



## 「探究」をどう評価すればいい!?

高校での「探究的な学習」の目標と評価、指導の基本  
を押さえ、その助けとなるポートフォリオ評価法、  
ルーブリックなどを実践事例を交え解説。

高等学校

## 「探究的な学習」の評価

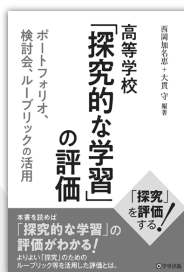
ポートフォリオ、検討会、  
ルーブリックの活用

[編著者]

西岡 加名恵 (にしおか かなえ)  
京都大学大学院教育学研究科教授

大貫 守 (おおぬき まもる)  
愛知県立大学教育福祉学部准教授

- A5判・204ページ
- 定価2,420円(本体2,200円+税)
- ISBN978-4-7619-2926-8



詳しくは、「学事出版」ホームページをご覧ください。ご注文もできます。

<https://www.gakuji.co.jp>

このもしあわせをともにつむぐ  
**学事出版**

千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F  
TEL 03-3518-9016  
FAX 03-0120-655-514

高校に1冊!

月刊**高校教育**

毎月13日発売

定価/1,089円(税込)

年間誌代/15,389円(税込)

※特大号1冊・増刊2冊を含む



# 教育「変革」の 時代の 羅針盤

「教育DX×個別最適な学び」の  
光と影

石井英真 著

A5判 240ページ 定価:2,860円(税込)

## 教育「変革」の 時代の 羅針盤

「教育DX×個別最適な学び」の光と影  
石井英真 著



(「はしがき—教育「改革」の時代から

教育「変革」の時代へ)より

教育「変革」政策が、タテ社会日本の、世間  
に準拠した行動に流れがちな同調主義、そして、  
めいめいの努力に依存する精神論に傾斜  
しがちな自力主義を少しなりとも問い直すも  
のになりうるのか。そして、より多くの子ども  
たちのウェルビーイングを保障する、より共  
生的で機動性のある公教育システムの構築に  
つながりうるのか。あるいは逆に、情報技術  
革新のインパクトも技術的に消費して、自由  
と多様性の名の下に社会の分極化と不安定  
化を強め、主体性尊重の名の下に、心理主義  
と社会問題の個人化の傾向を強め、結果とし  
て生きづらさの拡大につながるおそれはない  
のか。本書では、教育「変革」政策の光と影  
を見極めて、「日本型学校教育」の再構築に  
つながる道筋について論じたいと思います。

## 現代カリキュラム研究の動向と展望

日本カリキュラム学会 編 A5判 420ページ 定価:5,060円(税込)

カリキュラム理論の展望、カリキュラム実践の課題、カリキュラム研究の方法について幅広く取り上げて論究。  
日本カリキュラム学会の30周年記念出版。



**教育出版**

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館  
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

TEL: 03-5579-6725  
FAX: 03-5579-6693

不二出版 刊行資料のご案内

〔編集復刻版〕

大正新教育

学級・学校経営重要文献選

全10巻 体裁ⅡA5判・上製・総4、026頁 編集・解説Ⅱ橋本美保・遠座知恵  
推薦Ⅱ天笠茂・佐藤学 全II期・全3回配本 抽定価Ⅱ198,000円

現場Ⅱ「教育の現実」から学ぼうとした、大正新教育期における教育者たちの実践の記録から、カリキュラム・マネジメントという視点で「学級経営」「学校経営」に関する論考・文献を精選、復刻する初めでの試み！

〔第一期〕高等師範学校附属小学校における学級・学校経営

第1回配本(第1、3巻) 東京女子高等師範学校附属小学校／東京高等師範学校附属小学校1 第2回配本(第4、6巻) 東京高等師範学校附属小学校2／奈良女子高等師範学校附属小学校

〔第二期〕師範学校附属小学校・公立校・私立校における学級・学校経営

第3回配本(第7、10巻) 茨城女子高等師範学校附属小学校／富山県師範学校附属小学校／明石女子師範学校附属小学校／田島小学校／神興小学校／三國小学校／倉敷小学校／帝國小学校／成城学園／成蹊学園／児童の村 ほか

幼児教育資料アーカイブ3 〔編集復刻版〕

幼小接続資料集成

別冊1

体裁ⅡA4判2面付(第6巻・B5判/第7巻・A5判)・上製・総約4,800頁  
編集・解説Ⅱ太田素子・小玉亮子・福元真由美・浅井幸子・大西公恵 推薦Ⅱ汐見裕幸・無藤隆  
全3回配本 抽定価Ⅱ162,800円 別冊解説分売可！ 定価3,300円

幼児教育から小学校教育への子どもの成長に合わせた、なめらかな「接続」とは？ 戦後から2010年代にいたるまで、さまざまに試みられた幼児教育と小学校教育との連携と実践の記録を、「幼小接続」という視点から本格的に集成した決定版！

●収録資料 第1回配本(第3、4巻) 神戸大学／東京学芸大学 第2回配本(第1、2、5巻) お茶の水女子大学／奈良女子大学／成城学園・玉川学園和光学園 第3回配本(第6、7巻) I F L E関係資料／羽仁説子ほか論考を精選！

〔編集復刻版〕水原克敏編・解題

戦後改革期文部省実験学校資料集成

〔第一期〕文部省の動向資料、東京・千葉・長野・奈良の各高等師範大学附属小学校(一部中学校・高等学校)報告資料を収録。  
全9巻 体裁ⅡA4判・上製・総3,994頁 全3回配本 抽定価Ⅱ247,500円

〔第二期〕初等教育実験学校研究資料第1、25集(昭和27年～36年発行)ならびに昭和28年度・29年度研究発表要綱を収録。  
全6巻 体裁ⅡA4判・上製・総2,504頁 全2回配本 抽定価Ⅱ165,000円

〔第三期〕初等教育実験学校報告書1から12(昭和36年～40年発行)を収録。  
全3巻 体裁ⅡA4判・上製・総1,228頁 抽定価Ⅱ82,500円

不二出版

〒112-0005 東京都文京区水道2-10-10  
TEL03(5981)6704 FAX03(5981)6705  
http://www.fujishuppan.co.jp

配本ごと分売可  
価格税込  
目録・見本呈

教育学関係学術図書のご案内

価格は税込。

日本キャリア教育事始め

『日本キャリア教育事始め』編集委員会編 3300円

レリバンスの構築を目指す令和型学校教育

關浩和・吉川芳則・河邊昭子編著 4180円

社会科・地理教育実践学の探求

志村 喬編著 3300円

レリバンスを構築する歴史授業の論理と実践

二井正浩編著 2750円

書くことの指導における相手意識の研究

森田香緒里著 8800円

現代韓国における歴史教育の立論と構想

梁豪煥著／福田喜彦・井上奈穂・金聖玟訳 4950円

米国社会科成立期におけるシティズンシップ教育の変容

斉藤仁一朗著 9900円

現代キャリア教育システムの日仏比較研究

京免徹雄著 8250円

質の認識としての音楽科カリキュラム

西園芳信著 5500円

子どもの心理と教育内容の論理を結びつけた社会科授業

社会科の理念と授業を考える会編 3300円

犯罪からの子どもの安全教育プログラムに関する基礎的研究

清水奈穂著 7700円

子どもの社会的思考力・判断力の発達と授業開発

加藤寿朗・梅津正美・前田健一・新見直子著 3300円

ドイツの学力調査と授業のクオリティマネジメント

原田信之著 2750円

歴史教師のビリーフに関する国際比較研究

宇都宮明子・原田信之編著 2750円

新しい歴史教育論の構築に向けた日独歴史意識研究

宇都宮明子著 10450円

アメリカ教育長職の役割と職能開発

八尾坂 修編著 3300円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34  
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) https://www.kazamashobo.co.jp  
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp



## 大学における教員養成の未来

—「グランドデザイン」の提案 ●定価2420円  
日本教師教育学会 監修 208頁  
鹿毛雅治・勝野正章・牛渡淳・岩田康之・浜田博文 編著  
「よい教育」の条件・「よい教師」の育成とは。未来に生きる子どもたちの学校教育を担う教師のあり方を学術的に検討、日本独自の教員養成モデルを提案。



## SDGs時代の地理教育

—「地理総合」への開発教育からの提案  
湯本浩之・西岡尚也・黛 京子 編著 ●定価2310円 180頁

「地理総合」を担当する教員を応援するため、開発教育が蓄積してきた具体的な教材やカリキュラム等、SDGs時代の新しい高校地理の授業を企画運営に資する資料や情報



## 現代アメリカにみる

### 「教師の効果」測定

—学力テスト活用による伸長度評価の生成と功罪  
西野倫世 著 ●定価4950円 272頁  
「教師の効果」とは何を指し、何をもって判断されるべきか。学力テスト結果を通じて教師の責任を問うことに関する、理論的実践的展望を得る上で必要な事例研究。



## ユネスコ・教育を再考する

—グローバル時代の参照軸 ●定価2200円 192頁  
日本教師教育学会 第10期国際研究交流部  
百合田真樹人・矢野博之 編訳著  
“Rethinking Education” 待望の翻訳。  
ユネスコの教育政策と実践の基盤議論を読み解く。  
重要語句や概念群の解説を加え紹介。



## セルフスタディを実践する

—教師教育者による研究と専門性開発のために ●定価2200円  
齋藤真宏・大坂遊・渡邊巧・草原和博 編著 210頁  
セルフスタディで教師教育を耕す日本発「教師教育におけるセルフスタディ」解説書&研究事例集。

## 教師のためのセルフスタディ入門

—協働的な問いによる実践の改善 ●定価4950円 410頁  
アナスタシア・P・サマラス 著  
武田信子 監訳/セルフスタディ翻訳プロジェクトチーム 訳  
世界的な教師教育の基本書がついに邦訳。教師、教師教育者のためのセルフスタディの指南書。

## 批判的思考と道徳性を育む教室

—「論争問題」がひらく共生への対話 ●定価2970円 312頁  
ネル・ノディングス、ローリー・ブルックス 著  
山辺恵理子 監訳/木下慎・田中智輝・村松灯 訳  
答えの出ない「論争問題」を授業でどう扱い、子どもたちと考えるか。対話が紡ぐ、共生への道。

## 実践・小学校生活科指導法

田村学 編著 ●定価2200円 146頁  
生活科の理念や理論、授業づくり等を、豊富な実践例とともに、体系的に解説したテキスト。

## スクールティーチャー — 教職の社会的考察

ダン・ローティ 著 ●定価4400円 384頁  
佐藤学 監訳/織田泰幸・黒田友紀・佐藤仁・榎景子・西野倫世 訳  
全米、世界での教師教育改革の起爆剤となった名著中の名著。教職の複雑な現実を描き出す。

## 批判的思考指導の理論と実践 <電子版>

—アメリカにおける思考技能指導の方法と日本の総合学習への適用  
樋口直宏 著 ●定価7150円 484頁  
教育方法学の立場からアメリカにおける批判的思考指導論について特徴を説明。  
※ご購入方法等、詳しくは右記QRコードから、もしくは弊社WEBサイト(<https://www.gakubunsha.com/>)から検索。



〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1  
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012  
E-mail: [eigy@gakubunsha.com](mailto:eigy@gakubunsha.com)

## 日本カリキュラム学会第35回（筑波大学）大会プログラム

2024年7月6日（土）・7日（日）

大会実行委員会

筑波大学 筑波キャンパス

茨城県つくば市天王台 1-1-1

委員長：樋口直宏

事務局長：唐木清志

事務局次長：田中怜

実行委員：京免徹雄、木村範子、梅津静子、

小原明恵、早瀬博典

